

## 子どもたちの笑顔がいっぱい

### 第38回こどもまつり

5月10日、「第38回こどもまつり」を中央公民館で開催しました。この日は、来場者とスタッフ約830人が参加。屋外にはシャボン玉やペットボトルボウリング、丸太切り体験コーナー、屋内ではストラックアウトや大縄とびなどが行われました。まつりの最後には、来場者全員で「うーめん体操」を踊るなど、子どもたちの笑顔と歓声で溢れていました。このまつりには、市内の母親クラブや子ども会育成会、民生委員・児童委員、児童館を運営するNPO法人、ジュニアリーダーなど多くの団体が参加・連携し、子どもたちの健全育成を応援しています。



▲切った丸太に飾り付けをする参加者たち

## 小原に春がやって来た

### 第12回春の検断屋敷まつり

4月29日、「第12回春の検断屋敷まつり」が材木岩公園で開催され、多くの来場者で賑わいました。晴天に恵まれたこの日は、大鷹沢子ども太鼓のオープニング演奏でまつりがスタート。材木岩の前に設置されたステージでカラオケが披露されたほか、検断屋敷前の路上では、だるま落とし競技や紙ヒコーキ飛ばし大会などが行われました。また、全国各地から寄贈されたこいのぼり約800匹が材木岩を背景に青空を泳ぐ姿は圧巻で、訪れた人たちは、元気に泳ぐこいのぼりと一緒に記念撮影をするなど、春の小原を楽しんでいました。



▲だるま落とし競技を行う来場者

## 大事に育てます！

### 保育園などにカブトムシの幼虫を寄贈

5月13日、社会福祉法人白石陽光園「生活介護とも」の利用者と職員が北保育園を訪れ、カブトムシの幼虫26匹を贈呈しました。同施設では、園児たちの教育の一助になればとカブトムシの飼育を平成18年からスタート。市内の保育園や幼稚園、小学校などに毎年カブトムシの幼虫をプレゼントしています。

この日は、北保育園の3～5歳児34人がお出迎え。幼虫を見たり軍手を触ったりしました。園児たちからは歓声が上がり、「ありがとうございます。大事に育てます！」と元気に約束していました。



▲興味深く幼虫を観察する園児たち

## 100歳おめでとうございます

### 服部ちよさんに松竹梅敬老祝金

4月24日、100歳を迎えた服部ちよさんを風間市長が訪ね、松竹梅敬老祝金と祝詞を贈り長寿を祝いました。ちよさんは清水小路の出身。戦争で夫を亡くされ、女手ひとつで2人の子どもを育てました。現在は孫が6人、ひ孫が12人います。韓流ドラマがお気に入り、字幕をしっかりと読みながら1日約7～8時間観賞。「ホジュン宮廷医官への道」の主演のチョン・グァンリョルが特にお気に入りです。食事は三食しっかり食べ、刺し身や肉が好物。ご家族は「好き嫌いなくなんでも食べ、早寝早起きすることが長生きの秘訣」と話してくれました。



▲ちよさんの長寿を祝うご家族と風間市長

## 感謝の心と長寿を願って

### 白川中学校で孫の手製作

4月28日、孫の手製作が白川中学校で行われました。この催しは、昭和40年代から同校で続く伝統行事で、日ごろお世話になっている地域の年配の方々に、地元で生産される竹を利用して孫の手を製作し敬老会で贈呈するものです。この日も同校の全校生徒35人が参加。3年生が1年生を指導することで長い間受け継がれてきました。また、製作された孫の手は山元町の仮設住宅に住む方々にも贈られます。参加した生徒は「竹を削るところが難しかった。日ごろお世話になっている方々に感謝の気持ちを込めて作りました」と笑顔で話してくれました。



▲苦しみながら竹を削る生徒たち

## 児童の成長を手助け

### ひこうせん交流事業に関する協定書締結

5月11日、本市と社会福祉法人星王会（風間文静理事長）は、「障害児通所施設白石市ひこうせん交流事業に関する協定」を締結しました。この協定は、発達に心配のあるひこうせんの通所児が、同年齢の子と交流することで発達を促し、子どもが持つ可能性を引き出すもの。今後、通所児と家族が、同法人運営の「認可保育所あそびの森」に行き遊び、行事に参加したりして交流していきます。風間理事長は「障がいを持っていても健常児と一緒に生活することは大切。少しでも子どもたちの成長に協力できれば」と話していました。



▲協定書にサインする風間理事長（左）と風間市長

## 開門20周年を踊りでお祝い

### YOSAKOI in 白石城

4月26日、毎年恒例となった「YOSAKOI in 白石城」が白石城本丸広場で行われました。今年は、白石城開門20周年を記念して盛大に開催。角張一郎白石市文化体育振興財団理事長が「今日はすがすがしい新緑と初夏を思わす天気です。皆さんのパワーあふれる踊りで白石城開門20周年をお祝いしてください」とあいさつをしてスタートしました。県内外から集まった15チーム約200人が、チームごとの踊りや参加者全員で踊る「総踊り」などを勇壮に披露。訪れた観客からはチーム名を呼ぶなどの声援が飛び交っていました。



▲踊りを披露する「よさこい走乱白石城」の皆さん

## 伝統芸能の継承と発展のために

### 第38回城の会

5月5日、今年で38回目を数える「城の会」が白石城本丸広場で行われました。この催しは白石の伝統芸能の伝承とさらなる発展を目指して毎年開催されているもので、観世流子ども能楽教室「鶴亀」や直派若柳柳宝梅会などの団体が仕舞や日本舞踊などを披露したほか、今年初めて白石第二小学校のつばさ合唱団が歌声を響かせました。また、白石城野点研究会と白石高等学校茶道部の野点も行われ、訪れた人たちは、白石城と伝統芸能が織りなす和の雰囲気と新緑の中、楽しいひとときを過ごしていました。



▲仕舞を披露する観世流子ども能楽教室「鶴亀」の皆さん